

科目名	理学療法基礎評価学Ⅱ	担当教員	小林 巧 隈元 庸夫 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	------------	------	-----------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR21E	①、②					

科目概要	心身機能・構造に関する検査法・測定法を実技も交えて学習し、理学療法における問題解決を幅広い視野にて展開する力を身に付けることを目的とする。具体的には、体力測定、感覚検査、反射検査、片麻痺機能検査、協調性検査、運動発達検査、筋緊張検査、バランス検査、整形外科検査、疼痛検査、脳神経検査、動作分析などについて、各検査の意義・目的を理解し、適切で正確な検査・測定および得られたデータの解釈について学習する。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各検査の目的について理解する。</li> <li>2. 各検査の測定方法について理解し、実践することができる。</li> <li>3. 各検査で得られたデータの解釈について理解する。</li> </ol>

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	片麻痺機能検査 1	片麻痺機能検査の概要	片麻痺の運動障害像を理解する。 片麻痺機能検査の目的を理解する。	
2	片麻痺機能検査 2	下肢の片麻痺機能検査	下肢の片麻痺機能検査の方法を理解する。	
3	片麻痺機能検査 3	上肢・手指の片麻痺機能検査	上肢・手指の片麻痺機能検査の方法を理解する。	
4	運動発達検査	運動発達検査	運動発達検査の種類を理解する。 検査の意義、目的を理解する。	
5	筋緊張検査	筋緊張検査	筋緊張の概念を理解する。 検査目的、方法を理解する。	
6	疼痛検査	疼痛検査	痛みのメカニズムについて理解する。 疼痛検査の目的と方法を理解する。	
7	脳神経検査	脳神経検査と高次脳機能検査	脳神経検査の目的と方法を理解する。 高次脳機能検査の目的と方法を理解する。	
8	感覚検査	表在感覚検査と深部感覚検査	表在感覚検査の目的と方法を理解する。 深部感覚検査の目的と方法を理解する。	
9	反射検査	反射検査	反射のメカニズムを理解する。 反射検査の目的と方法を理解する。	
10	協調性検査	協調性検査	協調性について理解する。 協調性検査の目的と方法を理解する。	
11	バランス検査	バランス検査と姿勢反射検査	バランス検査の目的と方法を理解する。 姿勢反射検査の目的と方法を理解する。	
12	整形外科検査	整形外科検査	整形外科検査の目的と方法を理解する。	
13	体力測定	体力測定	体力測定の目的と方法を理解する。	
14	動作分析 1	動作分析の目的と意義	動作分析の目的と方法を理解する。	

15	動作分析 2	動作分析の実践	動作を観察、記載し、分析できる。	
	評価方法	筆記試験（60%）・実技試験（40%）		
	課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
	教科図書	松澤正・他『理学療法評価学 改訂第 6 版』金原出版、2018 年 隈元庸夫『症例動作分析』ヒューマンプレス、2017 年		
	参考図書	奈良勲・他『理学療法検査・測定ガイド 第 2 版』文光堂、2009 年 細田多穂監修『理学療法評価学テキスト 改訂第 2 版』南光堂、2017 年 伊藤俊一監修『形態計測・感覚検査・反射検査 第 2 版』三輪書店、2014 年 伊藤俊一監修『整形外科的検査』三輪書店、2014 年 伊藤俊一監修『片麻痺機能機能検査・協調性検査』三輪書店、2014 年 田崎義明・他『ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版』南山堂、2016 年		
	学習の準備	1 （予習）事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと（90 分） 2 （復習）授業で学んだ手技について復習すること（90 分）		
	オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他在室時はいつでも可能		
	担当教員欄に※印を附した教員の実務経験			